

令和4年(2022年)6月7日 (火曜日)



三島市南本町の三島梅花藻の里で、大学生らによる手入れ作業を体験する様子。

# 学生が梅花藻手入れ

芝浦工業大

## 水辺再生の取り組み学ぶ

三島

三島市南本町の三島梅花藻の里で5日、芝浦工業大の学生ら16人が、手入れ作業を体験した。NPO法人グラウンドワーク三島(GW三島)の関係者から水辺再生の取り組みを学んだ。

同大の環境システム学科は、環境フィールド体験として、毎年三島市で実習している。今回初めて同大付属柏中高校の高校生3人も参加した。三島梅花藻の里では、湧水の減少と水質の悪化で姿を消したミシマバイカモの再生を実現したGW三島の活動について聞いた。

同学科の中口毅博教授は「住民とコミュニケーションを取り設計プランニングする大切さを勉強してほしい」と述べた。同大2年の林紘大さん(20)は「川の良さを生かした町づくりと地元愛に感動した」と話した。

学生らはGW三島のインスタクターの案内で、白滝公園や水の苑緑地、中郷温水池など市内の水源、川を巡った。